

## 悪性リンパ腫における cancer panel の構築を目的とした分子遺伝学的検索に関する研究

### 1. 研究の対象

本研究は悪性リンパ腫の患者さんを対象にしています。1999年以降、国立がん研究センター中央病院において悪性リンパ腫と診断された方々の診療録、診断に用いたがん組織の残余検体がある方々が対象です。もし、残っている場合には研究用に採血させていただいた血液検体も用います。ただし、この研究の対象となる患者さんにおいても、この研究に使用しないでほしいというご希望のある場合、下記の『研究への利用を拒否する場合の連絡先』にご連絡いただければ、診療録、残余検体、血液検体を研究に使用することはありません。

### 2. 研究目的・方法

悪性リンパ腫はリンパ球に由来する悪性腫瘍の総称です。我が国においても、年間2万人の方が悪性リンパ腫を発症しています。さまざまな治療法の発達により、徐々に治療成績は良くなってきていますが、現在においても、残念ながら年間1万人以上が悪性リンパ腫のために亡くられており、より有効な治療法の開発が必要です。

最近では、遺伝子を解析する機器の進歩などにより、悪性リンパ腫の発症、進行に関わる遺伝子の異常がいくつも見つかってきており、悪性リンパ腫の特性が徐々に明らかになってきています。また、特定の遺伝子の異常に対して効果をもつ薬剤も次々に開発、登場してきています。しかしながら、現状ではそれぞれがばらばらに報告されていることが多く、悪性リンパ腫においてどの程度の遺伝子の異常があるのか、その中でもどの遺伝子の異常が重要であるのか、また、遺伝子異常がある場合にどの薬剤が有効なのかなど、系統だった理解は得られていません。

本研究では、多くの患者さんのがん組織を丁寧にしらべ、がんの原因となる遺伝子の異常や、悪性リンパ腫の性質や治療の効果と遺伝子の異常の関係を調べます。それにより、がんの原因を解明できる可能性があり、さらに効果的な治療法の開発につながることが期待できます。

診断を行うために採取されたがん組織、ならびに研究用に採血させていただいた血液がもしあれば、そこからDNAやRNAを抽出し、その配列を解析することによって、がん組織の遺伝子の構造や機能がどのように変化しているかを調べます。また特徴的な遺伝子の異常が見つけた場合、患者さんの悪性リンパ腫の特徴や治療内容、治療効果などといった臨床情報とつなぎあわせることで、その遺伝子異常とがんの性質との関係を検討します。

研究期間は2028年3月31日までを予定していますが、必要に応じて変更する可能性があります。その際はまたHP上でお知らせいたします。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料としては、診断を行うために採取されたがん組織などの残余検体、ならびに研究用に採血させていただいた血液を用います。また、患者さんの悪性リンパ腫の特徴や治療内容、治療効果などといった臨床情報も用いて、遺伝子異常とがんの性質との関係を検討します。

対象となる患者さんの識別のため、本研究専用研究番号を割り振り、研究に用いる試料や情報は研究番号によって管理します。患者さんのカルテ番号と研究番号を対応させる表はがん研究センター内で適切に管理します。

### 4. 試料・情報の公表

研究の結果については学会や論文等で発表する予定です。

### 5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科 福原 傑

伊豆津 宏二（研究責任者）

FAX 03-3542-3815/TEL 03-3542-2511